



学校だより

10月号

令和2年9月30日

まちのみんなひとつになあれ

「新しい評価について」

校長 堀野 由里

4月当初の入学式、始業式からすぐに休業になり、6月の学校再開から始まった今年度の前期ですが、今月9日に終業式を迎えます。長い休業明けの学校の教育活動でしたが、子どもたちは、新しい学年に進級したこと、1年生にとっては小学校入学、そして新しい学級での友達や担任との出会いを少しずつ実感しながらがんばってきました。子どもたちの健康を優先しているため、できることが限られ、時に窮屈な思いやもどかしさも感じたのではないかと思います。そんな中でも、子どもたちが、自分たちの学べる場や活躍できる場、友達と関われる場などで力を発揮したり、笑顔でいたりする姿があり、日々嬉しく感じています。

さて、ふだんより短い前期ですが、ここまでの学習や生活の様子を「あゆみ」を通してお知らせします。今年度から評価についても新しくなります。近年の社会の多様性や生活の質的变化を踏まえて、平成29年に新しい学習指導要領が示されました。新学習指導要領では重視する力を、①「知識・技能」②「思考力・判断力・表現力等」③「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱で示しました。そして昨年度までは各教科の特性に合わせた4観点や5観点だった評価の観点は、この3つの柱に合わせた3観点になりました。重視する力の捉え方が変わったので、評価軸も変わりました。新しい観点は①「知識・技能」：何を知っているか。何ができるか。概念的な知識も重視されます。②「思考・判断・表現」：課題や問題に向きあって解決していく能力。自分が身に付けている知識や技能を活用する力。論理的に考える力。友達など周囲と協力し合って解決法を見つける力。自分の考えや思いを表現する力。③「主体的に学習に取り組む態度」：これまでの「関心・意欲・態度」とは評価軸が変わっています。発言が多いことや活発に取り組むという性格や行動面だけではありません。知識や技能の習得や、思考力・判断力・表現力を獲得するために、自分の学習状況を把握しながら問題解決に向けて試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかという意思的な側面を評価します。また、それに向けて粘り強く取り組む様子も併せて評価します。

このように今年度から3観点の評価となり、これまでの評価とは評価の軸が変わったことをご理解いただき、お子さんの今後の成長のためにどんな力をつけていったらよいのかを、面談でご確認いただけたらと思います。また今年度の前期は、グループでの話し合いなど友達と関わる学習が難しかったことや、体育や家庭科、音楽などの活動場面では多くの制約があったこともご了承いただけたらと思っています。

子どもたちがこの状況の中、精いっぱい取り組んだことを、しっかりと見取り、評価しながら、私たちも授業を振り返り、修正・改善していくことを大切にしていきます。これからも子どもたちが安心してのびのびと教育活動に取り組み、力を高めていけるよう努めていきます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。